

みちのくの二人旅

有田 五次郎

Itsujiro ARITA

九州産業大学 情報科学部 元教員

2002年：非常勤、2003-2007：専任、2007-2010：非常勤
arita@kvd.biglobe.ne.jp

1. はじめに

6月の13日から17日まで東北地方を旅行しました。なんでこんな時期にとの思いもありましたが次のような理由からあえて計画し旅行してきました。

3月11日の地震発生以来TVやインターネットを通してすさまじい、悲惨な映像が大量に繰り返し流されました。広範囲にわたり多種・多様な被害が発生したため情報の洪水となり、「もういい、分かったよ。」という気になりました。たしかに仙台空港付近はこうだ、釜石は、気仙沼は、石巻は、陸前高田は、といろんな情報は得ましたが、これで被災が「分かった」というのは少し違うような気が付きまといまいます。「実感」を伴わない「箱」の中の出来事とみていのではないかと、ということです。良いたとえになっているかどうか分かりませんが、真っ白な雪山が夜明けのわずかな時間ピンク色に染まるエベレストのモルゲンロートをハイビジョンTVで見ると「自然は素晴らしい」と感動しますが、まつ毛も凍りそうな寒さの上高地で「息をのんで」見上げた穂高連峰のモルゲンロートの感動は全く異なるものです。自分の目で何が起こったかを見ておきたいと思いました。また世界自然遺産である白神山地も以前から訪れたいと思っていた場所でしたから、この機会に北東北を回ることになりました。標題に書いたように家内との二人旅です。人物が映っているものがありますがご容赦ください。

2. 森と水の大地

<東北新幹線で秋田へ>

博多 06:04 秋田 17:58 秋田温泉泊

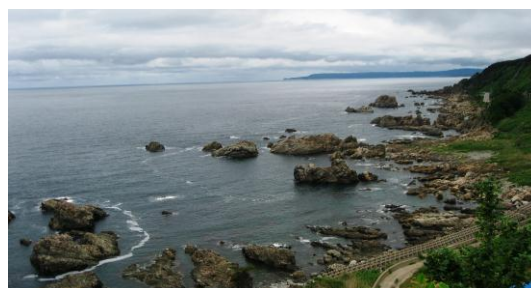
3月12日に祝賀行事抜きに九州新幹線が開通した。これで九州鹿児島から東北青森・秋田が新幹線で結ばれるはずだったが、前日の震災により東北新

幹線が不通になり先延ばしに。東北新幹線が復旧開通したので九州新幹線の端からではあるが、山陽・東海道・東北新幹線を乗り継いで行くことにした。ただひたすらに走る列車の旅は、景色を眺めたり居眠りをしたり、のんびりとした旅であった。新幹線は内陸部を通っているの、車窓から見た東北地方は、ときどき列車が徐行し倒れた電柱が見えたり、ところどころ屋根にブルーシートをかけた家を見る程度で、ニュースで見たすさまじい被害の様子はうかがい知れなかった。

<白神山地>

秋田 08:24 能代 09:34 レンタカー（白神山地） 弘前 17:35 青森 18:03 青森泊

秋田からリゾートしらかみ1号で能代まで行き、レンタカーで白神山地の秋田側一番の景勝地十二湖青池を目指す。国道100号線は五能線とほとんど平行して海岸線を走る非常に良い道路。日本海の景色が素晴らしい。五能線は日本海に沈む夕日が売り物で、リゾートしらかみは景勝地では徐行して観光案内をするとのこと。



五能線沿線の日本海

五能線十二湖駅の手前から標識に従って100号線を離れ十二湖に向かう。いくつかの美しい池を過ぎて青池の駐車場に至り、そこからブナの原生林の中を

溪流沿いにしばらく歩くと、鏡のようにブナ林を湖面に映した青池に出る。



十二湖青池 どこからが水面？

100号線に戻り、陸奥岩崎から白神スカイラインに入る。白神山地を横切る約90kmのほとんどが未舗装。11月中旬—5月下旬閉鎖のスカイライン。津軽峠から世界自然遺産に指定され立ち入りが制限されている白神の山々を眺め、唯一立ち入りが許可されている青森側の景勝地暗門の滝に向かう。



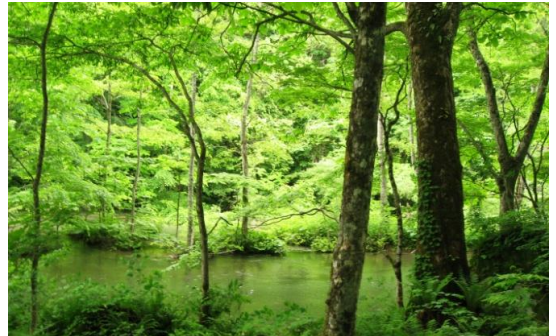
津軽峠から白神の山々を望む

白神スカイラインから暗門の滝に至る道は毎年積雪のため崩壊し、6月下旬に通行可能になるとのことで、残念ながら滝には行けず、自然保護協力を払っての「自然遺産のブナ原生林」の散歩で終わった。

<奥入瀬渓谷・十和田湖>

新青森 08:24 八戸 08:57 レンタカー (奥入瀬・十和田湖) 八戸 16:06 仙台 17:34 仙台泊

新青森から30分強、乗ったと思ったら八戸駅。レンタカーを借りて一路奥入瀬渓谷へ。奥入瀬渓谷は、激しい流れの瀬と静かな淵、高い滝と広い滝、広葉樹の原生林と断崖絶壁など、渓谷美の見本のように、3時間の渓谷の散歩を満喫した。



奥入瀬渓谷の動と静

奥入瀬から十和田湖に上がり、高村光太郎の最後の彫刻である乙女の像で引き返し、八戸駅から仙台へ。震災後3カ月の仙台はビルの改修工事などはあるが落ち着いたたたずまいだった。

3. 自然の猛威

<松島・野蒜・石巻>

仙台 08:13 松島海岸 09:02 松島観光 松島海岸 (代行バス) 13:45 野蒜 14:09 野蒜 15:09 石巻 16:13 石巻 17:15 仙台 18:47 仙台泊

仙台駅から仙石線の普通電車に乗り松島海岸に向かう。中学生、高校生で満員。東塩釜まで何度か学生の乗り降りがある。東塩釜で乗り換え9:00過ぎに松島海岸駅に到着。海岸通りの店は軒下ぐらいいまで冠水跡があるも営業を開始している店もある。瑞巖寺、五大堂を見て遊覧船に乗る。松島湾は以前に見た美しい景色を保っていた。



松島湾

昼食を済ませて、不通になっている仙石線の代行バスで野蒜駅へ。

駅に降りたときに息をのむ。TVで見慣れたものと同じ様な景色なのに声もなく立ち尽くす。



ただ茫然



駅の津波避難の指示と指定された避難場所



黙ってただ歩く

備えはあっても自然の猛威は計り知れない。約1時間、声をひそめるように周辺を歩く。この間、石巻方面から降りたリュック姿の若い男性と、黄色の腕章の巡回員の二人としか出会わず、生活感の色濃く残る「がれき」の中で、まるで無人の荒野にいるような静かな澄んだ空気を感じた。

生活感を含めてなにかも押し流されて3ヶ月の被災地には、ハマナスであろうか、再生・復興を促すように、赤い美しい花が咲いていた。



ほっと息を吐く

次のバスで石巻に着く。バスを降りると強い異臭を感じたが、人や車が行き交っているのを見ると順調に復旧が進んでいるようにも思われた。

仙台に帰る電車を待つ間石巻の市内を歩く。まず北上川の河口近くの中州に立つ石ノ森萬画館に向かう。駅から10分も歩くと津波の被害の残る地区に出る。震災後3ヶ月を過ぎているが、信号は消えたままであり警官が交通整理を行っていた。



道路脇には船が

石ノ森萬画館も被災をしていたが、その前には近くの地域で収集した「思い出の品」に関するお知らせが出ており、横を向くと道路わきに船が。実際は、復旧・復興がまだまだであることを感じさせられた。

4. おわりに

被災地を訪れた翌日、東北・東海道・山陽新幹線で帰宅しました。結構な強行軍でいささかくたびれはしましたが、北東北の素晴らしい森と水の大地から「自然の美しさ」を感じ、被災地からは「自然の怖さと強さ」を感じました。

被災地に降り立った時、TV等で繰り返し見たことがあるような景色なのに全く異なって見えたと言えました。視角・視野が異なり、風、匂い、気配などを五感で感じたからだと思います。

震災の被害は甚大で復旧・復興には多分十数年かかるのでしょう。国難だ、国民一丸となって復興を、と言われていますが、復興を遂げ、この災害の教訓を生かして災害に強い国づくりをするには、息の長い協力・努力が必要だと思います。そのためにはこの震災を心に刻んで忘れないことが重要で、その目的は達した気がします。